

○議長（作元 義文君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は4人を予定しております。

それでは、届け出順に発言を許します。16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） おはようございます。

一般質問を今回行う中で、私は1月7日の長崎新聞の社説に、対馬の韓国の観光客が18万人を超えたという大きな見出しでこの記事を見ました。そのとき、島内の消費金額、経済効果含めた関連のそういうふうな数字が全体で出ておったものですから、その詳細について、長崎新聞には書かれておりませんでした。今思えばその他の機関の新聞においては、その詳細が私が資料を出した後に確認したものですから、ああ、これ早くよく調べればよかったなというようなことであります。さらに、その根拠となる実数の捉え方、その方法について、きょうは、このことについては対馬市が全てこのことに対して取り組んだというふうなことが書かれておりますから、そこらを今回対馬の韓国の観光客の本当の実態、見られ方、そしてその経済の及ぼす本当の実数、ここらを時間をかけてゆっくりお尋ねしたいと思います。

それと、実は、私林業振興の問題を1点抱えておりましたが、今回どうしても間に合わないということで、次回にさせていただきます。ですから、本日の持ち時間がやや余るかもしれませんが、精一杯頑張りたいと思います。

それでは、通告に従い市政一般質問を行います。

韓国釜山港より、対馬厳原港への国際航路の開設は平成11年より始まり、大亜高速海運1社のみが就航しておりましたが、平成24年4月より、突如運休するなど不可解なこともございましたが、同年秋にはJR九州高速ビートル、未来高速コビー3がそれぞれ新規に運航を開始することになったのは御承知のとおりであります。航路開設後、今年で15年目になろうとしておりますが、先ほど申しましたように、1月7日付、長崎新聞によりますと、昨年対馬に訪れた韓国人観光客が18万人を超えた、このことであります。

関連して、対馬市は、平成24年度に約15万人が訪れた観光客による島内消費額を33億3,100万円と試算、その社説の中で、「しかし、宿泊施設は慢性的に不足し、ホテル誘致なども進んでおらず、同本部は、観光客は予想以上に伸びている、ビジネスチャンスの多さを島内外の企業にアピールしたい」とのことをコメントしております。今回試算された島内消費額または経済波及効果、どのように分析されているのか、その根拠についてお尋ねをいたします。

また、平成23年10月より算入した2つの船会社であります。今の現実には過剰供給と思われるような実態であります。宿泊施設不足も相まって、日帰りの企画をやむを得ず組んでいるということにあります。何と、15万人中7万3,000人を超えた日帰りの実態であります。西日本新聞によりますと、船会社が旅行会社とタイアップして格安で海外に行ける、免税品も買える

日帰りツアー、そして激安ツアー、この商品売り出しているということが記事に載っております。しかし、このようなことはいつまで続くのか、全く私は未知数だと思っております。このことについて、市はどのように捉えておられるのか、この点についても御答弁をお願いします。

それと最後に、未だに宿泊施設の対応がなされていないと、これ記事の中で書かれております。昨年、一昨年、このことについて、特にホテル誘致の問題がございましたが、その後、現在どのような対応をなされておられるのか。対馬全体を含めた中でどのような対応をしようとしておられるのか。この点についてあわせてお尋ねいたします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 大浦議員の御質問に答えさせていただきます。

今回分析しました島内消費額につきましては、平成24年8月から平成25年2月までの間、韓国人観光客を対象として、この期間に4回実施したアンケート調査の結果や例年実施している観光統計、観光産業関係各社への聞き取り調査などから得られたデータを基礎として、平成24年中に対馬を訪れた韓国人観光客数から推計して算出しております。

なお、アンケート調査では、島内での移動方法、飲食代、土産品代、ツアーか個人の別、個人の予算や島内使用額など、詳細なデータを入手し、試算をしており、島内消費額については推計ではあるものの信頼の持てる算出結果となったと考えております。もう御存じかと思いますが、平成24年韓国人の観光客数は15万836人でございます。その島内消費額でございますが、交通費で2億3,000万円、宿泊費3億9,000万円、飲食代5億9,600万円、土産代21億1,500万円、合計の33億円というふうな計算でございます。観光消費額の件については、そういうことで答弁とさせていただきます。

2点目の、現在3航路事業者が参入をしている中での現状の分析と将来の展望についてお尋ねがございました。もう御案内のとおり、3社で運航されておりますこの韓国人観光客の入国者は、平成25年1月から12月までの1年間で18万人を超え急激な増加傾向にあります。東日本大震災による風評被害で集客が不可能との理由から運休した釜山―対馬間の国際航路、当時を振り返りますと全く想像できなかった大変喜ばしい状況となっております。現状も、昨年同期と比較した場合、好調な伸びを見せています。

また、韓国の関係機関への聞き取りでも、対馬が置かれた地勢的な関係、すなわち安・近・短の長所によるブームにかげりがないとのことでございます。ただ、日本国内同様に韓国内でも個人旅行者がふえているとのことで、この個人旅行者に対するインフラ整備も必要となってくるのだろうとの意見もございます。

現在の国際航路の就航状況は、大亜高速海運のオーシャンフラワー号の定員が455名、共同運航となりましたJR九州高速海運のビートルが200名、未来高速海運のコビーが200名で

ございます。平日1往復で最高855名、週末に増便したときは巖原港、比田勝港を合わせますと1,000名を越す入り込みであります。また、昨年4月から共同運航のビートル・コビーの釜山―博多間の比田勝港寄港も臨時的な航路として対応されていますが、これも積極的に寄港していただき、観光客の集客と増加に努めてまいります。

今後の取り組みとしましては、歴史と自然に関心の高い旅行者の誘客をさらに進めていき、地域資源の保全と観光振興の両立により経済的な効果も実感できる持続的な、国内では例を見ない対馬ならではの国際観光地づくりを目指してまいります。具体的には、今後整備予定の比田勝港、巖原港、国際ターミナルの建設など、地域に密着した観光振興や地域づくりを進めるため、一般社団法人対馬観光物産協会との役割分担により、市全体のPRに特化し、広域的な視野と民間団体としてのメリットを生かすことでニーズに応じた積極的なPR活動などを、今後も増加が見込める外国人観光客の受け入れ態勢の基盤整備に取り組んでまいります。

また、外国人観光客の満足度を高めるため取り組んでまいりました現地におけるハード面での対応強化につきましても、外国人観光客が多く訪れる観光施設、店舗、宿泊施設等、島内30カ所に中継ステーションを設置し、公衆無線LAN、無料Wi-Fiを利用できる環境整備を進めてまいりましたが、この3月末には供用開始の予定であります。今後も受け入れ側として、観光サービス環境の整備と魅力発信に努めてまいりたいと考えております。

次に、3点目の未だ宿泊施設等の誘致がされてないがどうなっているのかと、その後の状況はどうなんだろうかというお話がございました。この件につきましては、国内、海外の事業者への接触を図ってまいりましたが、前向きな事業者の発掘には至ってないのが現状です。そのような状況の中、三宇田地区におけるホテル用地につきましては、4月、来年度っていいですか、来月っていいですか、4月には長崎県より国定公園事業の公園事業の許可が下りる予定であります。これまで国定公園の第2種地域であった当該地は、建ぺい率20%、容積率40%、地下施設まで含めた建屋の高さ、13メートルという建築の制限がございましたが、公園事業の許可が下りますと制限がなくなるというか、無制限ではないんですけども、そのあたりの緩和があり、県とそして事業者が協議の上施設を建設することができるようなこととなる見込みであります。これまで交渉をしてきた企業の中にも建築制限がある中でのホテル建設となると、部屋数やその他施設の規模が小さくなり採算性が取れないという指摘も受けているため、ホテル事業者としてもより事業がやりやすい環境になり、建設に興味を持つ事業者も出てくる可能性は高まるものと考えております。

しかしながら、これまでの誘致活動の中で報告が上がっているのは、ホテルという大型の投資となりますと資金の回収にかなりの時間がかかることや、また北部地区につきましては、用地周辺の娯楽が少ないこと等もあり、投資に消極的になっている側面もございます。このような状況

のもとではありますが、観光客増によるさらなる経済効果を対馬にもたらすためには、先ほどおっしゃられました日帰り客をやはり滞留型に変える必要があります、そのためには島内の宿泊数の上限を上げる必要があります。対馬への経済効果を考えた上で、今後はホテルの誘致と同時に、ペンションやキャンプ場やバンガローなど、大型投資を必要としない宿泊施設の設置についても検討をしていく方向で進めてまいりたいと考えております。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 消費額の答えは出ておるわけですが、その方法についてアンケートをとった、あるいはその他の推計とか旅行会社とのそういうふうなチェックをされたということが根拠ということでございますが、アンケートの調査については何人ほどの実態をやられたんですか。それと、この作業に従事された担当部署というのは観光物産推進本部だと思いますが、その範囲でどの程度の職員数がかかわってここについて作業されたか、もし市長が御存じなければ担当部長でも結構ですが、ちょっとお聞かせください。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今の質問に対して、詳細な部分については担当部長に答えさせますが、4回実施の9,600人を対象にアンケートを実施をしたというふうに聞いております。そして、設問の内容につきましては、先ほど申しましたような内容をもとに15項目の質問からなっております。どれぐらいの職員がそこにかかわってこの推計をしたのかという話につきましては、担当部長のほうから答えさせたいと思います。

○議長（作元 義文君） 観光物産推進本部長、本石健一郎君。

○観光物産推進本部長（本石健一郎君） 失礼いたします。大浦議員さんの御質問ですが、アンケート調査に何人従事したかという御質問ですが、比田勝港におきましては常時2名、それから厳原港においては3名ということで、市がもともと緊急雇用で24年やった分もありますけども、あとは昨年は単独ですが、一応それぞれ今市長が申しましたように、15項目について日々アンケート集計を観光物産協会のほうで行った結果でございます。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） このことで私も分析といいますか、どのぐらいの金額が1人当たり消費しているかというふうなことをはじめてみたわけですが、まず交通費が15万とした場合には1,524円、いわゆる日帰り客がバスを使わないという見込みでやればこれが2倍になります。3,000円ということになるろうかと思えます、おおむね。大体半々ですから、7万人の数字が宿泊する方とそうでない方とはっきりわかれております。それと宿泊が4,705円。宿泊の、これ私が途中で聞きしたんですが、延べ数で8万2,860人、これは2泊3日が入っておるという意味でございます。通常1泊2日に2泊3日が足した延べが8万2,860人、

宿泊の実数は7万7,078人という数字が振興局のほうで出ておりました。日帰りが7万3,758人。先ほどのことにつけ加えますが、飲食費、これは宿泊費を除く飲み食い、2次会に行くとか、あるいはその他別にお金を使った、3,951円。次に、一番大きい土産代、これは21億1,500万という全体の63%を占めておりますが、1人当たり1万4,021円という数字になっております。それとこれに観光客は乗船経費、船代が入るわけですが、通常であれば比田勝一釜山は、通常であれば正規の料金は7,500円、厳原港は8,500円となっておりますが、3社が競争しておりますのでうんと下がりがまして5,000円前後ではなかろうかという韓国の引率の方のお話もありましたが、なかなか中身は言おうとはしませんでした。そのくらいのことじゃなかろうかという意味です、ですから、これに1万円を加えたのがツアーの経費の最低の金額じゃなかろうかと思われまます。問題は、私はこの数字は果たしてどうかなと思うのが土産代なんです、土産代の1人1万4,000円という数字は、どこでどういうふうな使い方をしとるかというのが、非常に私はこの調査としてチェックしないと、少し間違った角度で解釈した場合には大きな誤算であるという気がいたします。その点につきまして、私は実数について慎重なチェックがなされたかというふうなことを1点お尋ねしたいと思ひます。この土産代の21億1,500万、全体の63%、島内の。これ果たして厳重なチェックの中でこの数字が出されたかということをお聞きしたいと思ひます。もうやってしまったとなれば、それでもう仕方ないんですが、その辺のことを、アンケートを実施された方がきちんと市の指導をもとにやられたかどうか、とりあえず御意見をお聞きします。

○議長（作元 義文君） 観光物産推進本部長、本石健一郎君。

○観光物産推進本部長（本石健一郎君） 一般的なアンケートというのは、コンサル会社辺りもそうなんですけども、大体1,000のうち400ということで、ほぼ世論調査当たりも出ているそうなんですけども、今回は約1万に近い中で実施をいたしております。内容的には、今大浦議員さんがおっしゃるのは、土産品代が突出しているんじゃないかということなんですけども、一応私もといたしましては、日帰り客と宿泊客の単価を比率で掛けた場合、日帰りの場合は32%と、宿泊が68%というようなアンケート結果でございまして、アンケートの中でも幾ら、何に使いましたかというような項目を設けております。その中で5万円以上とか1万円刻みでアンケート内容をいたしておりますので、その平均値と、各部門平均値ということになりますけども、真ん中の数字が入ってくるわけで、それでおかしいといわれてもアンケートの集計結果がこのようになったということしか申し上げることができません。

以上でございます。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） そう言えばそれで終わるんです。ただ、私がこの日帰りツアー

の企画に非常に注意せないかんという点を持っております。これ西日本新聞の対馬市のほうからいただいた資料だと思いますがね。結局過剰な船会社の乗船率を上げることで、激安のバック、ツアーを組むと、このように書いております。それで、そのやり方はわずか往復4,000円ぐらいの商品の中には入れて激安ツアーを催すと。そしてその狙いは船会社と旅行会社が話し合いをした中で、韓国の観光客を対馬に乗せてそういう旅行させる手前に、韓国の釜山の国際ターミナルの中で、いわゆる免税品を先にお買わせるといふようなコースになっておるんです。それで若い韓国の女性、20代です。化粧品を韓国産の化粧品をターミナルでがっばり買って、そして金を払うて、この記事には高級ブランドのバッグとかそういうふうなことを韓国側で買うということになっておるんです。問題はそこなんです。ですから、アンケートをする方が、「あなたは幾らの土産代を使いましたか」、この中にひょっとすれば釜山で落とした土産品の金額も入っておる可能性があると思いますよ。僕は、そこがこの見方として非常に、1万4,000円を果たして対馬で使ったか、これはこの調査方法として非常に注意せないかんところであったんですよ。今のことが西日本の11月の8日の新聞の日付が入っておりますが、全く、記事の内容ですが、ちょっと目が、字が小さくて読みにくいものですから省略いたしますが、3割超えて、その若い女性が比田勝港にようおらんのですか。その方たちはほとんど化粧品等を釜山で買うということになつとるみたいですよ、この記事では。これは、私はそのアンケートをする方が帰りがけに、対馬に来るときじゃなくて帰りがけに果たしてそのような厳重なチェックをされてやったのかというの、いささかどうであったかというふうな思いをしております。と申しますのは、対馬の土産品、これは平成15年ということになりますと、厳原川端通りの免税店、これは韓国の資本の経営だそうです。ここの売り上げ実数、それから残りは上対馬のスーパータケスエの食料品、美津島のサイキスーパーの食料品、ティアラ内のレッドキャベツ、この全体4カ所になつとるそうです。これは添乗員さんからの話で私も聞いております。そうしますと、これだけの平均、1万4,000円というのがあるということは相当な買い物です。22億です。程遠い実績のようにありました。私が調べた範囲ですよ。ですから、私は担当部署としてはその数字の責任を出す以上は対馬でその買い物があつたかということぐらいは私は慎重になってチェックする必要があつたのではなかろうかと思いますが、これ私1人の疑念でございます。そういう買い物は果たしてどうかというふうなお方もございましたが、その辺の数字の把握というのが私はいかがなもんかというふうにも思っております。市長、その話ですから、一つの調べ方にもいろいろありましようが、この西日本の実態が韓国側に金を落とすというやり方を完全に企画しておりますから、船会社とその旅行会社双方が、これに私は少し惑わされた点があつてるんじゃないかと思いますが、市長、見解を一つ今の件について求めたいと思います。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） このアンケートの中では、旅行目的というところがあります。その中にはあえて韓国の免税店というのも旅行目的の一つに、選択肢の一つに入れております。素直に書いていただけるならば、自分は免税店を目的としているんだということがはっきりすれば、その分については当然ながらデータとしては削除、島内消費を私どもは見つけていくことが今回の目的でありましたので、削除しながら、そこについては積み上げてきているはずなんです。

それで、免税店のお話がありました。今島内にあります分については、あくまで消費税の免税でありますし、彼女たちって言ったらかわいいんでしょう、「化粧品」って言われたから彼女って言いましたけれども、旅行者の人たちが考えているのは関税の分でありますし、その関税がかからないお店がこちらに入ってくるならば、もっともこちらで金は落ちていくんだろーと思いますが、いかんせんあの世界っていうのは相当の資本力がないと回せない業種であります。それらについてはなかなか島内で組み立てていくというのは難しいものだろうというふうには思っています。三十数%の方が島内日帰りをされている。それは私どもの宿泊施設が足りないということも当然ながら、今の免税品を狙ってということもそれはあるでしょう。しかし、かつて私ども、私はそんなことなかったですが、よく日本の旅行者が免税店に行って高級ブランドをやはり買いあさるというようなことは、かつてヨーロッパとかアメリカでもよく報告をされてきたことでございます。それらについては人間の性なんだろうとは思いますが、それを対応できない自分ら対馬のもどかしさっていうのは当然ありますが、先ほど言ったことでそれについてはなかなかままならん部分があります。しかし、それ以外の方たちをどのようにこの対馬の中に引き入れていくかということがとても大切なことだと思っておりますし、これからそういう取り組みに力を私どもは入れていかないといけない。一定の割合でそのような免税品を目的とされる方は、私は消えないと思っております。できればこちらで受け入れられる形の環境といいますか、そういうのにこれから力を入れていければいいなと思っております。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 先ほどのことにつけ加えます。要は、おっしゃいます関税の額をもって船に乗ってもまだお釣りがくるというような企画をやっているんですね。ですから、要は旅行するお金をわざわざつくり出すというふうなことじゃないようなやり方を仕組んでおるみたいですよ。だから、全く、何といいますか、対馬の旅というような一つの思いよりは、船が動くために人を集めるというやり方なんですよ、今のところ。市長、私はその辺が今あなたのおっしゃる話と少し違います。これは、今のやり方は、日帰りのやり方は、恐らく長う続かんであろうという。これ、理由は、採算が合わんということはもうはっきり公的に、機関に新聞で上がっております。この日帰りツアーの成り立ちは、採算とれないということはもうはっきりしておりますから、だからいっぺんに2社が入り込み、もともと大垂高速が10年超えて持った基盤をたま

たまその東北大震災と運休、この問題で不意をつかれた格好で算入したと、簡単に言えばそういうことです。ですから、この2社は3社ともしびれが切れるまで、倒れる寸前まで恐らくやっていくだろうと思いますが、いつかはいい方向に今のままではなるはずがない。ただし、宿泊施設の方向が改善できればこれは別です。そのような状態が今のつくられた現実ではなかろうかと。ですから、今のままでいけば、何年経つか知りませんが、3社がそのままおるという可能性はもしかしたらあるかもしれないし、もしかしたらないかもしれない。このような方向で物事を考えておかないと、今の数字が10年にわたって続くのかといえ、私もわかりませんが、果たしてどうかなという思いもします。その辺が私ちょっと市長と違うところなんです、今そのことについて、申し上げたことについて、市長の考えをもう一回確認したいと思うんですが、日帰りの企画が非常に無理がいとるといふことの現実が、私はこれは経営の破綻の原因になるかもしれないと思うんですが、その辺どう見ておられますか、その見方。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今おっしゃられた部分については、私ども行政側が仕掛けたというか仕組んだものでもありません。向こうの皆さん方の事情でなっているということは私は認識はしております。ただし、航路事業者のほうも飛行機の北九州―釜山間のLCC就航等によりまして、博多―釜山間のお客が減っていく中でそれぞれ航路事業者としての生き残りを求めてさまざまな商品をつくってあるんだらうというふうに思っております。冒頭言われた日帰りの問題がありましたが、それこそそれぞれの航路事業者、旅行代理店等々の考え方でやってあることだと思っております。私ども18万人になったからといって決して喜んでいる、ただ何も考えずに喜んでいるわけでもありませんし、どのようにしてこの地域と韓半島が仲良くやっていけるかということも考えながら、この問題には取り組んでるつもりでございます。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 言いにくいこともあるでしょうが、私らから見た場合にはそういうふうな意見を持っておられる方のことも含めてしゃべっているつもりです。ですから、今からホテルを確保するとかあるいはペンションをつくるのかというのは、今の展開でいくのか、これが下火になって日本の観光客が来ることを見込んでやるのか、やはり戦略というのはそういうなことを、当然長期的展望を考える必要がありますから、私はこのことについては一つの短期的にはそう動かなくても長期には動くというふうな見方もする必要があるだろうと思っております。

そしてもう一つ、これは申し上げておかなことですが、国県道の特別委員会の委員長報告の折に、九州郵船の乗船金額の値上げの話し合いがあった折に、社長さんがこんなこと言ってましたよ。「壱岐―対馬の旅を大阪事業所、東京事業所、年間2万人弱、1万8,000人程度をツアーを組んで対馬―壱岐に来るようにしてるんだが、宿泊は全部韓国に押さえられて泊まるとこ

ろがございません。仕方なしに全部壱岐に泊まっております」、これ巖原のことだけじゃわかりませんが、そう言い方されておられました。この実態、私はちょっと韓国の話もあるんですが、今の日本の本土から来るお客さんがこのような状態、この現実、市長わかっておられましようが、これでいいのかということと、どういう方向かというのは、先ほどの答弁の中でありましたが、北のほうも考えはそれでいいでしょう。じゃあ、下の対応について、もしコメントがあればお聞きしたいと思います。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 国内旅行者が宿泊が取れないという実態については、私のほうも十分に承知しております。そういう中、観光物産協会、それから旅館組合等々に対しまして、これの改善ということを考えていかないと、国内客のほうは逃げていきますよということで対策を練っていただきました。その中の一つとして、やはりほどよい割合で宿泊、旅館業を営んでおられる方たちがほどよい割合で入れていく、国内外を、ということをししないと、それぞれ突然どちらもキャンセルが入ることがあるわけですし、海が荒れたとき来れないとかいろんな問題がいっぱいありますので、その割合というのをほどよいところでやはり空けて待つことを考えていかないといけないという結論に至って、旅館業を営んでおられる方たちのほうにも、私ども観光物産推進本部のほうから、それから観光物産協会のほうからそのような指導は恐らくこの一、二年はずっとしてきているところですけども、なかなかそこについて旅館業を営んでいる方たちの改善に至っていないということで、国内客が泊まれないというふうな状況が出ているというふうに私は見ております。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） どうやら韓国パワーに押されて対馬に来る日本の観光客が、週末前後にはそういうことがならないということが今のままでは解消できないということでもあります。しかし、どうですか、もう6年の中で1つ大きな手を打ってもいいんじゃないでしょうか。私はこれが一番早急に政治としてそれを誘導する、仕掛けをするのが対馬市長の立場であろうと思います。今までは別としまして、今からそれを進めていくことは、対馬の外貨を獲得するに一番重要なことと思います、今のところ。一つ、私はそのことを強く求めて、この件についてとりあえず終わります。

最後にございます。おっしゃいますように、新たな投資をすることは、今からの時代に非常に危険であることは私も承知しております。ただ、公の施設が目的廃止になった場合の活用、これ私は北部の中には幾つか点在しております。今後またそれがあろうかと思えます。それは学校だと思えますが、これを活用するというふうなことをもう少し勉強されて、部長さん、あるいは関係する人たち、そういうふうなことに着目をしていただきたい。そのコメントについて、市長の

見解を求めたいと思います。学校施設の活用が宿泊施設に検討することができないか。いかがですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 補助金をもらった施設ですので、国との協議もあろうかと思いますが、いま国も大分緩和されてきておりますので、いま言われたような使用方法については、緩やかな判断をしていただけるものとは思いますが、また、学校施設、廃校になっていくというか、統合することによって閉校校につきましても、またその地域の方たちの思いというのがありますので、そのあたりのことも十分に汲みながら判断はしていきたいというふうには思います。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） もう時間が来ました。最後ですが、通告には入れておらんやっただんですが、この1週間前に韓国の観光客が流入する中で、美津島町の洲藻の地区、ここに白嶽登山が目的で、大型バスが1日6台前後入ると。幅員の3メートルの車道ですが、そこにぼんぼん入って往復されたら、非常に集落の皆さんが危険であるというふうな意見を持っておられます。それで、そのことを市に言うたのかと言えば、一応要望はしたが、対応については全く返事は無いというふうなことであるから、きょうの観光客の関連としてぜひ取り上げてくれという意見を預かっておりますが、担当部長のほうにもしそのことが、これは建設課と思いますが、何かございましたらコメントいただけないでしょうか。市長でも結構ですが、そのことを聞いておられれば、聞いておられねば、建設課のほうには多分そのことは耳に入っておるはずですよ。いかがですか。

○議長（作元 義文君） 建設部長、堀義喜君。

○建設部長（堀 義喜君） 洲藻のその道路につきましては、確かに地元のほうから要望はあっております。この要望の時期といたしましては、新病院建設に伴いまして地元のほうから出てきた条件でございます。そのときに一応部といたしましては、事業の検討はしておりますが、何分先ほど申します新病院の建設に関しての地元からの条件でございましたので、その辺の話がちょっと途中で切れましたので、事業としては今後の見解というスケジュール的には今のところないという状況になっております。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） これで終わりますが、危険箇所、もしくは幅員の狭いところが、危ないところがあれば、その現実を調べられまして、それなりの区長さんとの対応をお願いして、私の一般質問を終わります。

○議長（作元 義文君） これで、大浦孝司君の質問は終わりました。